

### ② 地震対策

#### 1) 下水道事業継続計画（地震編）の運用管理及び訓練の実施

地震による影響によって下水道機能が低下した場合であっても、下水道業務を実施・継続し、早期に復旧させることを目的に「町田市下水道事業継続計画\*（地震編）」を策定し、2015年度から運用しています。

同時に、下水道BCM部会を設置し、下水道BCM部会を中心に、計画の実効性を高めるため、定期的に訓練を実施しています。

### 3. 経営の効率化及び健全化・より良い下水道サービスの導入

長期的な視点で膨大な下水道施設の老朽化の進展状況を予測し、リスク評価などの手法で優先順位を付けて施設の点検・調査を行い、その結果を評価・分析した上で、修繕や改築更新を実施していきます。

下水道施設（ストック）全体を計画的かつ効率的に管理するため、2022年度に「町田市ストックマネジメント計画」を策定しました。今後も最大5ヵ年ごとの計画を策定し、施設の点検・調査及び修繕・改築更新などを実施していきます。

ここでは、管渠、下水処理場などの「効率的・効果的な維持管理の推進」及び「計画的な改築更新」について具体的な取組みを示しています。本計画に位置付けられた施設の点検・調査、改築更新は「下水道ストックマネジメント支援制度」（国土交通省）により、社会資本整備総合交付金（国庫補助金）の交付対象事業となるものです。

#### (1) 効率的・効果的な維持管理の推進

##### ① 状態監視保全の維持管理

機械や設備の状態を点検や調査で常に監視し、異常の早期発見による故障予防及び最適な時期の修繕によりコスト削減を図る手法を用い、管渠及び下水処理施設の維持管理を行います。

#### 1) 管渠の点検・調査の実施

2024年度に「町田市下水道管施設資産管理第3期調査実施計画」及び「町田市ストックマネジメント計画」の実施方針の見直しを行い、点検・調査計画を策定しました。

管渠の設置時期や設置箇所などから優先順位を設定し、2026～2035年度の10年間で586kmの「面的」な点検・調査（スクリーニング）を実施します。

また、2025年1月に埼玉県八潮市で発生した道路陥没を受け、町田市独自の緊急点検（約59km）と、国からの要請による全国特別重点調査（約13km）を実施しました。今後は全国的な動向や国の要請を注視し、これらの点検調査結果を次期計画の見直し時の点検や調査の優先順位設定に反映させる予定です。

表6-13 管渠の調査延長と事業費

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計
事業費 (百万円)	13	101	104	107	73	73	73	73	74	85	776
調査延長 (km)	5.4	97.1	101.8	54	54.6	54.1	54.7	54	55	54.8	586



図6-23 スクリーニング調査の状況（左）、破損状況のイメージ（右）

## 2) 下水処理施設の詳細調査

下水処理場・ポンプ場の各設備状態について重要度の高いものから詳細調査を実施しています。計画的な修繕・改築更新の実施につなげることで、緊急で発生する大規模な修繕費用の抑制に努めています。2025年度末における状態監視保全の対象資産は、中分類単位として、成瀬クリーンセンターは13分類、鶴見川クリーンセンターは11分類、鶴川ポンプ場は5分類です。

表6-14 下水処理場・ポンプ場の中分類単位の詳細調査件数

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計
詳細調査 (件数)	10件 以上	10件 以上	10件 以上	10件 以上	10件 以上	10件 以上	10件 以上	10件 以上	10件 以上	10件 以上	100件 以上



図6-24 汚泥掻き寄せ機の詳細調査状況写真

② 污水管への浸入水対策

1) 污水管への浸入水対策の実施

分流式下水道では、污水管の劣化箇所や誤接続された雨水管から雨水が污水管に流れ込むなどの「雨天時浸入水\*」が全国的に問題になっています。当市では、効果的かつ効率的な対策実施に向けた計画を立案するための基本的な考え方を定めた国土交通省の「雨天時浸入水対策ガイドライン(案)」に基づき、2025年度に「町田市雨天時浸入水対策計画」を策定しました。

浸入水対策を進めるため、2015年度以降、雨天時浸入水が多い地域を特定するための絞り込み調査を実施し、現在は、浸入箇所を特定するための詳細調査をTVカメラ調査、送煙調査、目視調査などにより実施しています。

詳細調査により污水管の劣化が確認された箇所については計画的な修繕を予定するとともに、雨どいなどの宅内の排水が誤接続されている箇所については改善指導を実施しています。

表6-15 浸入水対策事業費

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計
事業費 (百万円)	10.6	10.9	11.3	11.6	11.9	11.9	11.9	11.9	11.9	11.9	115.8

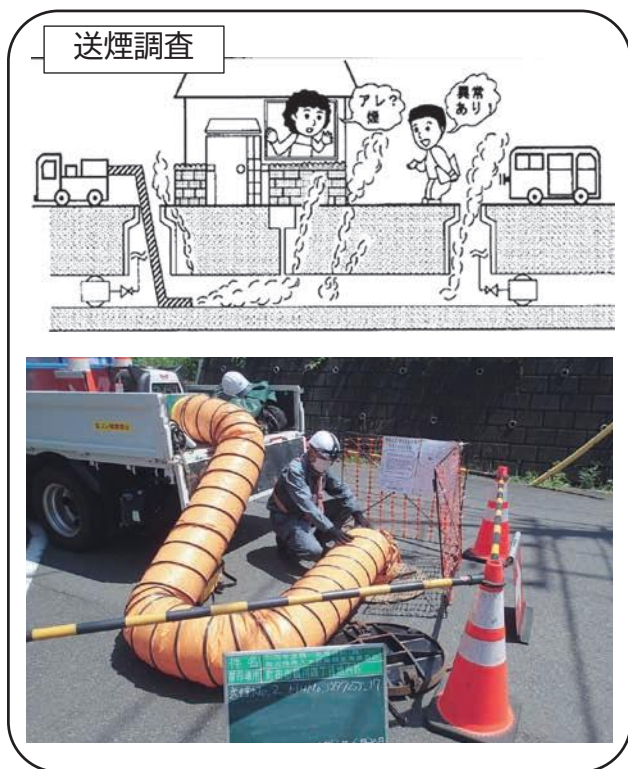


図6-25 浸入対策の調査の様子（送煙調査）

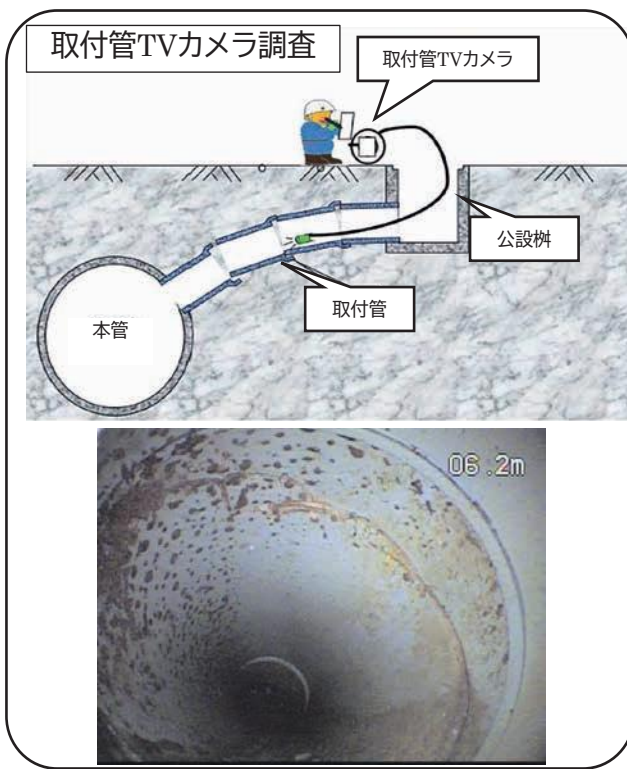


図6-26 浸入対策の調査の様子（取付管TVカメラ調査）

### ③ 地理情報システムを用いた維持管理情報の一元管理

#### 1) 地理情報システムを用いた維持管理情報の一元管理

従来、点検記録や修繕履歴などの維持管理情報は、紙やCDなどで個別に管理・保存されてきました。2025年度に地理情報システム（GIS）<sup>※20</sup>を更改し、新たにデータ取込み機能を追加したことで、職員が点検記録や修繕履歴などの維持管理情報を容易にGISに取り込むことが可能となりました。これにより、点検結果や修繕状況を即座に把握するとともに、効率的な維持管理を実現できるようになりました。

今後は、過去に紙で保管されていた維持管理情報を順次GISに取り込むことで、情報量を充実させ、より効率的な維持管理の実現を目指します。



図6-27 GISによる維持管理情報の表示

### ④ 民間活力の導入

#### 1) 民間のノウハウの活用

2023年に国が示した「PPP/PFI推進アクションプラン」では、コンセッション方式（レベル4）への段階的な移行を見据えた、管理・更新一体マネジメント方式（レベル3.5）以上の導入拡大を目的としています。

また、ウォーターPPP\*は、「長期契約（原則10年）」「性能発注」「維持管理と更新の一体マネジメント」「プロフィットシェア」などの要件があり、これら全てを充足する民間委託の実施が求められます。

現在の町田市下水道事業で実施している委託レベルは、下水道管や下水処理場における日常点検や運転監視などを単年度・仕様書による発注を行うレベル1です。

レベル3.5以上を目指すには、これまでの下水道事業の運営体制から大きな転換が必要となります。導入の検討を進めるにあたり、先進自治体での導入事例を参考に、これまでの下水道事業サービスの維持・向上を図るとともに、災害発生時に緊急対応が適切にできる体制の維持・確立が必要となります。また、導入後も新たにモニタリング業務が必要となるため、職員の技術力に応じて段階的に進めます。

<sup>※20</sup> 位置情報に関連する様々なデータをコンピュータ上で統合・管理し、地図上に表示・分析して、空間的な傾向や関連性を視覚的に把握するためのシステム。GISはGeographic Information Systemの略。

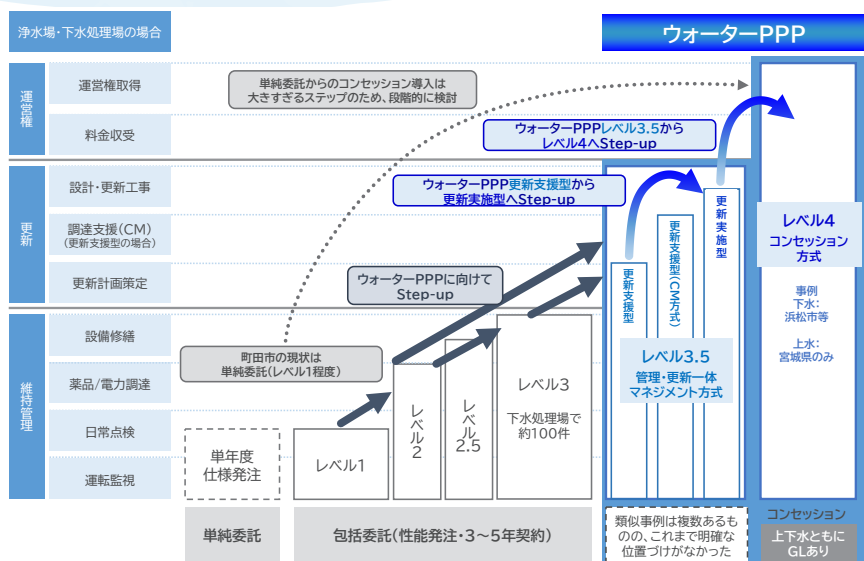


図6-28 ウォーターPPPのレベルイメージ図

(2) 計画的な改築更新

① 「町田市ストックマネジメント計画」に基づく改築更新

1) 管渠の改築更新

「町田市ストックマネジメント計画」に基づき、点検・調査の結果をもとに改築計画を策定し、污水管・雨水管それぞれの劣化状況を踏まえた改築更新を実施します。

管渠の改築更新は、管渠の内面を樹脂等で覆い修復する更生工法と、道路を掘削し古い管渠を新しい管渠に入れ替える布設\*替え工法を併用して行います。

なお、2025年度までに、污水管9.8km、雨水管0.1kmの改築更新工事が完了しています。

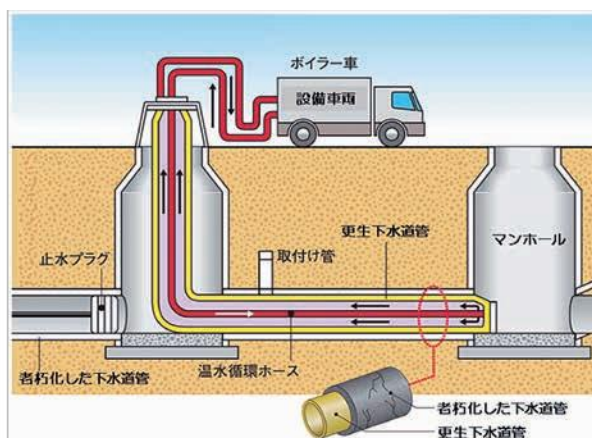


図6-29 下水道管の更生工法のイメージ図 (一例)



図6-30 更生工事前のコンクリートが劣化した下水道管 (左)、更生工事後の下水道管 (右)

表6-16 汚水管の改築更新事業費と工事延長

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計	
事業費 (百万円)	47	37	565	560	290	45	31	462	462	483	2,982	
汚水管	詳細調査 (km)	12.7	0.0	0.0	0.0	10.9	10.9	0.0	0.0	0.0	11.3	45.8
	実施設計 (km)	0.0	3.2	3.2	1.4	0.0	0.0	2.4	2.4	2.4	0.6	15.6
	改築工事 (km)	0.0	0.0	3.2	3.2	1.4	0.0	0.0	2.4	2.4	2.4	15.0

表6-17 雨水管の改築更新事業費と工事延長

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計	
事業費 (百万円)	1,025	717	0	23	608	1,035	955	0	0	61	4,424	
雨水管	詳細調査 (km)	22.8	0.0	0.0	0.0	9.3	9.3	0.0	0.0	0.0	9.7	51.1
	実施設計 (km)	2.6	0.0	0.0	1.8	3.2	3.2	0.0	0.0	0.0	1.8	12.6
	改築工事 (km)	2.6	2.6	0.0	0.0	1.8	3.2	3.2	0.0	0.0	0.0	13.4

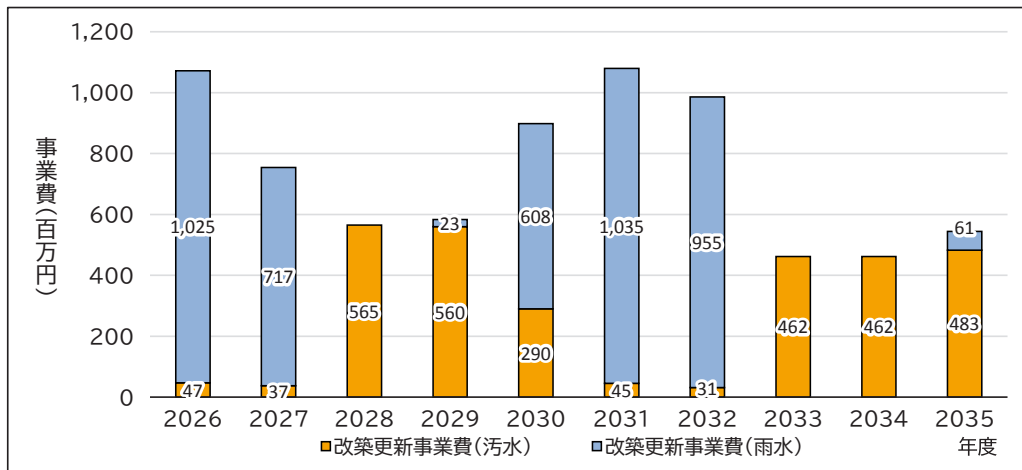


図6-31 汚水管・雨水管の改築更新事業費

## 2) 下水処理場・ポンプ場の改築更新

「町田市ストックマネジメント計画」に基づき、成瀬クリーンセンター・鶴見川クリーンセンター・鶴見川ポンプ場において、下記のとおり改築更新を実施します。

表6-18 下水処理場・鶴見川ポンプ場の主な設備改築更新工事

年度		2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
町田市ストックマネジメント計画		第Ⅱ期	第Ⅲ期				第Ⅳ期				
成瀬 クリーン センター	改築-1	沈砂池設備	改築工事				実施設計	改築工事			
	改築-2	揚水設備									
	改築-3	水処理設備	実施設計	改築工事			基本実施設計	改築工事		改築工事	
	改築-4	汚泥処理設備	改築工事	実施設計		改築工事	改築工事				
	改築-5	汚泥焼却設備	改築工事				改築工事				基本設計
	改築-6	電気設備						基本実施設計	改築工事		
鶴見川 クリーン センター	改鶴-1	沈砂池設備			改築工事						
	改鶴-2	揚水設備	改築工事								
	改鶴-3	水処理設備								実施設計	改築工事
	改鶴-4	汚泥処理設備					実施設計	改築工事			
	改鶴-5	汚泥焼却設備	実施設計			改築工事					
	改鶴-6	電気設備		実施設計	改築工事						
鶴見川ポンプ場	改ポ-1	電気設備	改築工事								

## 第6章 10カ年の事業計画

表6-19 成瀬クリーンセンターの改築更新事業費

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計
事業費 (百万円)	528	1,208	1,642	280	1,022	491	1,009	1,297	997	1,237	10,080

表6-20 鶴見川クリーンセンターの改築更新事業費

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計
事業費 (百万円)	163	432	228	616	885	914	597	103	126	362	4,426

表6-21 鶴川ポンプ場の改築更新事業費

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計
事業費 (百万円)	54	248	0	0	0	0	0	13	23	0	338

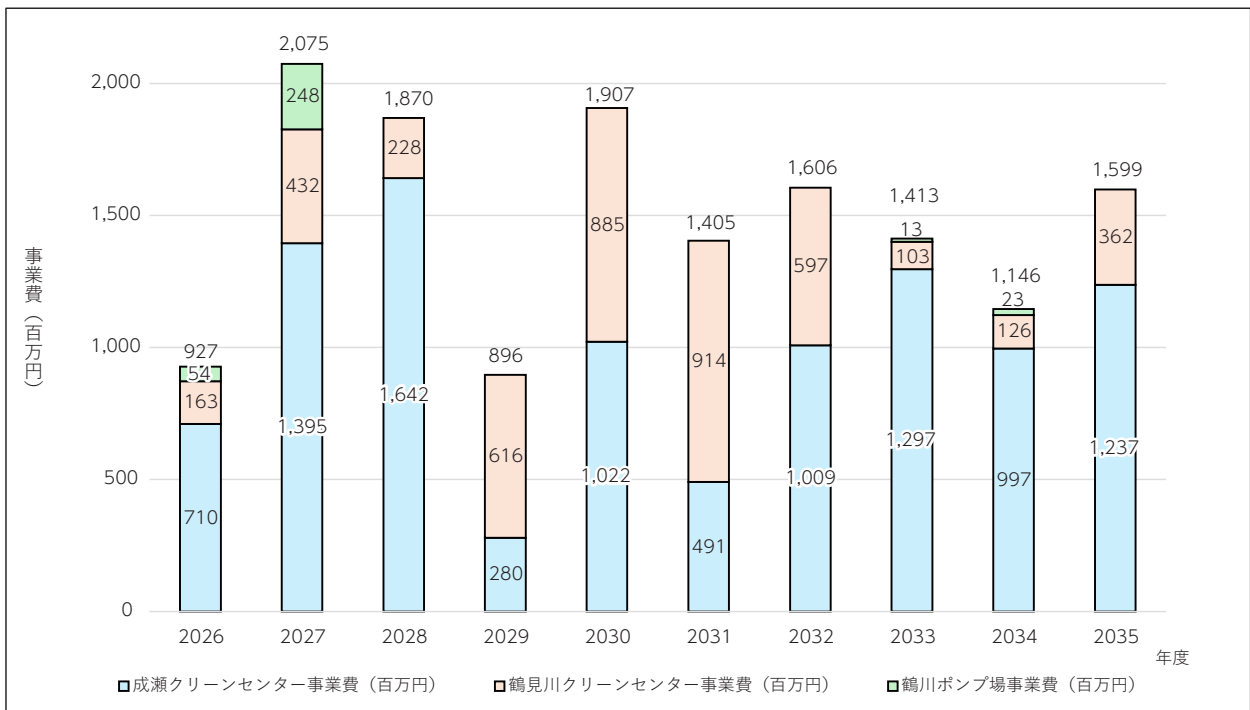


図6-32 成瀬クリーンセンター・鶴見川クリーンセンター・鶴川ポンプ場の改築更新事業費

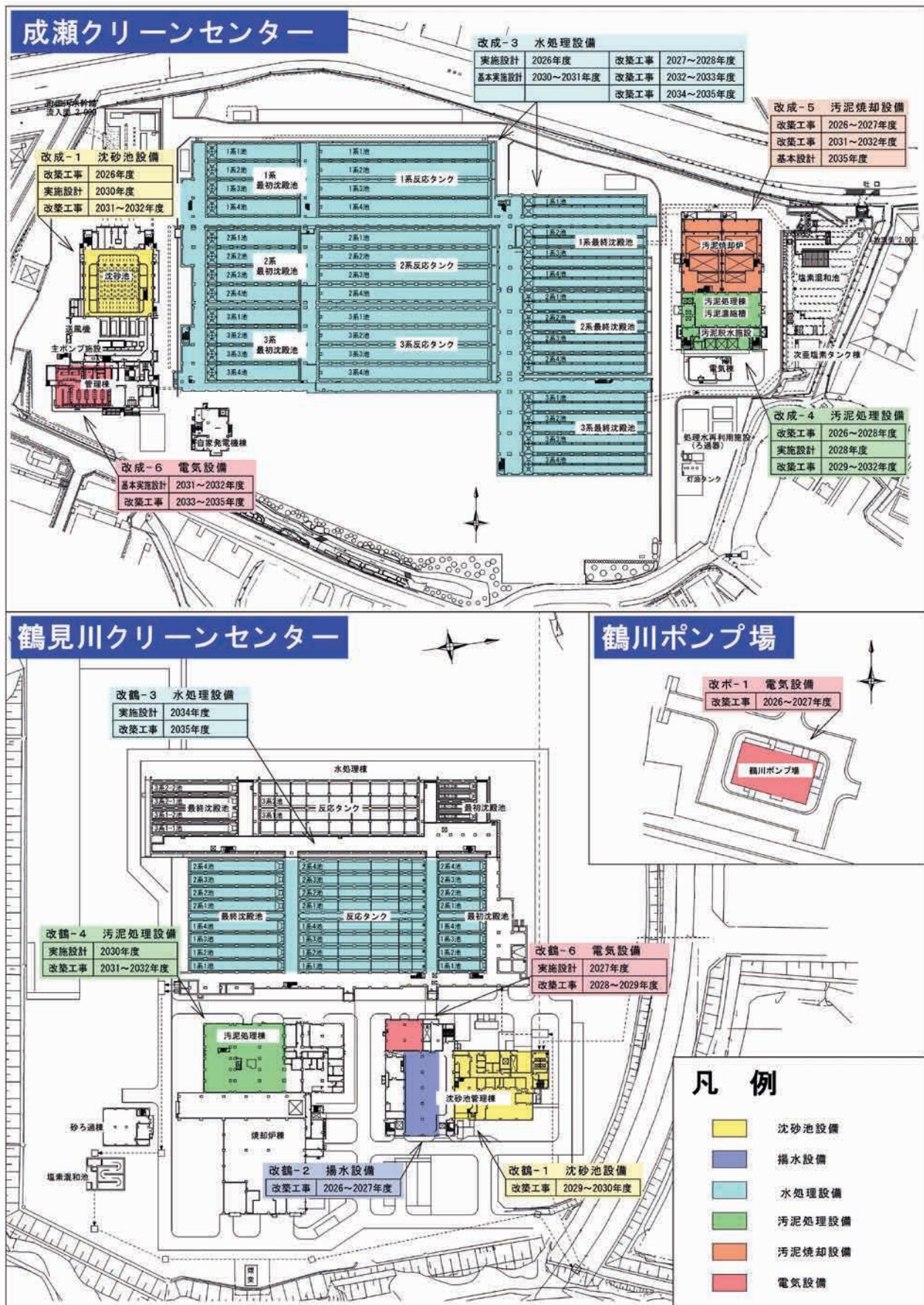


図6-33 下水処理場・鶴川ポンプ場の主な設備改築更新工事実施箇所

### (3) 持続可能な下水道財政基盤の確立

#### ① 資産の有効活用

##### 1) 資産の有効活用

下水道事業の経営の観点から、限りある下水道資産を効率的・効果的に活用し、収益化していくことは非常に重要な取組みです。

取組みを進めるにあたっては、社会情勢や環境の変化を踏まえた定期的な見直しが必要となります。これまで取り組んできた事例の評価・検証を行い、その成果を基に新たな事例を検討し、資産のさらなる活用を推進します。

#### ≪処理場未利用地の活用の継続≫

2020年5月から、鶴見川クリーンセンターの敷地の一部を、「ホームタウンチームの練習場として利用するとともに、市民の誰もがスポーツに親しめる場所」として使用許可しています。今後も利用状況を確認しながら未利用地の活用を進めます。

#### ≪処理場水処理棟屋上の活用方法の検討≫

成瀬クリーンセンター水処理棟の屋上には、屋外テニスコート14面が整備され、市民の健康増進のため活用されています。

鶴見川クリーンセンター水処理棟の屋上は耐震補強が必要な状態のため、補強工事完了後の活用について検討していきます。

#### ≪下水道管敷設用地の活用の継続≫

下水道管を敷設するための下水道用地に自動販売機、看板などの設置を許可することで、収入増や維持管理費用の削減を図っています。今後も更なる活用を進めます。

#### ≪雨水調整池の活用方法の検討≫

雨水を調整池の大部分は上部利用がされていない状況で、草刈りなどの維持管理費用が課題となっています。

民間提案制度<sup>\*21</sup>を活用し、雨水を一時的に貯留する機能を維持しながら有効活用する方法の検討を継続します。他市では、自然環境を活かしたレクリエーションの場や遊歩道、スケートボードパークとする事例などがあります。

<sup>\*21</sup> 民間事業者等が市に対して、社会課題の解決や市民サービスの向上等に繋がる提案をすることができる制度です。